

紅葉と初冠雪

北アルプスの雪化粧に続いて富士山の初冠雪のニコスが届いた。山の紅葉は初冠雪のころが最も鮮やかと言われている。よう、本州中部の高山では紅葉最終版を迎、一〇〇〇メートル級の山々や北関東、東北の山々は紅葉の真っ盛りの季節となってきた。紅葉が山裾に向かって一〇〇〇メートル驅け下るに三週間ほどかかる。

一〇月始めの週末、秋色を味わいながら奥秩父の標高二五〇〇メートルの山を歩いてみた。三〇〇メートル付近山麓でもすでに黄葉や紅葉がはじまつており、高度を増すにつれてウルシや山ブドウの葉が秋の穏やかな日差しに紅色に鮮やか色づいていた。秋の澄んだ空気を通して頂上からの三六〇度の眺めは素晴らしい。奥秩父の山々から小海線越しに向かいのハケ岳の山並みが見えた。

前夜初めて雪化粧をした北アルプス、対照的にまだ雪を抱いていない南アルプスから富士山が浮かぶように遠望できた。この二日後に富士山の初冠雪の報が届いて秋山はまさに紅葉とともに初雪、初冠雪の季節となっていた。一四〇〇メートル付近の山小屋での夜明けの気温が氷点下一度、まもなく初雪を迎える月には本格的に雪化粧をするのだろう。

太平洋側にある富士山と日本海側の北アルプスの初冠雪のプロセスは少し異なる。日本海側の山々の初冠雪は、発達した低気圧の通過後、大陸の本格的な寒気の襲来、木枯らしに乗つてやってくる。暖かな日本海から温められ水蒸気をもらつて対流雲ができる。平地では時雨模様の降つたり止んだりの冷たい雨が降り、山頂付近で点下数度位の強い寒気で雨にならず雪のまま降つて初冠雪となる。

一方、富士山の雪は本州南岸ぞいに進む低気圧や前線の北側で降るもので、山頂付近で氷点下数度の強い寒気がはいれば雪となる。記録的な猛暑の夏だった昨年は、残暑が一休みして、たまたま入った寒冷渦の寒気で雪が降り八月二一日にすでに初冠雪が記録されてしまった。

もちろんすぐ解けてしまったが、昨年の大冷夏の年には逆に九月二一日と遅い初冠雪となつて年ごとの変動が大きい。日本で降る雨は冷たい雨のメカニズムが主で上空は雪だらけ。上空で融けて降れば雨、融けずにそのまま降れば雪、融けかけがミゾレとなる。雨と雪のはざまで紅葉の鮮やかさが最高潮に達する。

村松 照男